

<添付資料#11A-a>

|    | 開催日         | テーマ  | 主催者               | 講演者   | 開催地               | 参加者 |
|----|-------------|--|-------------------|---|-------------------|-----|
| 1  | 2007年5月14日  | OISTスペシャルセミナー<br>「能動的学習における神経および分子メカニズム」                     | 銅谷賢治 (OIST)       | ジョン・バイン(テキサスメディカルスクール大学ヒューストン校)                               | OIST OITC セミナールーム |     |
| 2  | 2007年8月27日  | OISTスペシャルセミナー<br>「意思決定から依存まで：海馬と線条体における新たな神経生理学的観察からの推定」     | 銅谷賢治 (OIST)       | ディヴィッド・レディッシュ (ミネソタ大学)  | OIST IRP セミナールーム  |     |
| 3  | 2007年11月16日 | OISTスペシャルセミナー<br>「線虫の神経ペプチド：A s c a r i s の神経システム-単純な神経システム」 | ロバート・シンクレア (OIST) | アンソニー・ストレットン (ウィスコンシン大学マディソン校)                                | OIST IRP セミナールーム  |     |
| 4  | 2007年2月7日   | OISTスペシャルセミナー<br>「注意欠陥多動性障害」                                 | ゲイル・トリップ (OIST)   | ジョセフ・サージャント (フリー大学)   | 沖縄県南部医療センター       |     |
| 5  | 2007年3月18日  | OISTスペシャルセミナー<br>「大脳皮質ネットワークのグローバル組織：トポロジー、レイアウト、発達、機能」      | ロバート・シンクレア (OIST) | クラウス・ヒルゲタグ (ヤコブ大学)  | OIST IRP セミナールーム  |     |
| 6  | 2007年4月24日  | 「生物種における学習について」  |                   | アンソニー・ベル (カリフォルニア大学バークレー校)                                    | OIST IRP          |     |
| 7  | 2007年4月24日  | 「系統別インデルパターンの定量的評価と哺乳動物（有胎盤類）のルーツ」                           |                   | ピーター・ワデル (南カロライナ大学)   | OIST IRP          |     |
| 8  | 2007年4月25日  | 「ネットワーク社会の新しい検出方法」   |                   | アンドレアス・ドレス (CAS-MPGパートナー・インスティテュート・フォア・コンピューテーショナル・バイオロジー、上海) | OIST IRP          |     |
| 9  | 2007年4月25日  | 「ピアノ、プラント、パスタ：数学への影響力」                                       |                   | ロバート・アンダーセン (連邦科学産業研究機構)                                      | OIST IRP          |     |
| 10 | 2007年4月26日  | 「嗅覚」   |                   | ピーター・マンバーツ (ロックフェラー大学)  | OIST IRP          |     |
| 11 | 2007年5月10日  | 「酸性リン酸脂質欠損の大腸菌における遺伝情報制御の影響」                                 |                   | 長濱秀樹 (埼玉大学)   | OIST OITC         |     |
| 12 | 2007年5月14日  | 「能動的学習における神経および分子メカニズム」                                      |                   | ジョン・バイン (テキサスメディカルスクール大学ヒューストン校)                              | OIST OITC         |     |

|    | 開催日         | テーマ                                       | 主催者                  | 講演者                                       | 開催地      | 参加者 |
|----|-------------|---|----------------------|---|----------|-----|
| 13 | 2007年5月30日  | 「マイクロRNAのもつ不変性から幹細胞まで」                    |                      | ジョナサン・ミラー（ベイラー医科大学）                       | OIST IRP |     |
| 14 | 2007年7月13日  | 「テクニカルセミナー」                               |                      | 新井紀夫（GE横河メディカルシステム）                       | OIST IRP |     |
| 15 | 2007年7月18日  | 「何がドーパミン細胞の活動を止めるのか？」                     |                      | ブライアン・ハイランド（オタゴ大学）                        | OIST IRP |     |
| 16 | 2007年8月6日   | 「スパイクニューロンを使用したベイズ推論」                     | ジェフ・ウィッケンス (OIST)    | マイケル・ポーリン（オタゴ大学）                          | OIST IRP |     |
| 17 | 2007年8月10日  | 「テクニカルセミナー」                               |                      | 新井紀夫（GE横河メディカルシステム）                       | OIST IRP |     |
| 18 | 2007年8月24日  | 「学習と記憶：エストロゲン関連遺伝子による社会的な性的行動および情動的行動の制御」 | 遠藤昌吾 (OIST)          | 小川園子（筑波大学）                                | OIST IRP |     |
| 19 | 2007年8月27日  | 「意思決定から依存まで：海馬と線条体における新たな神経生理学的観察からの推定」   | 銅谷賢治 (OIST)          | ディヴィット・レディッシュ（ミネソタ大学）                     | OIST IRP |     |
| 20 | 2007年9月4日   | 「結び目理論から分子生物学まで」                          | ロバート・シンクレア (OIST)    | ナファー・チビリ（韓国科学技術院）                         | OIST IRP |     |
| 21 | 2007年9月5日   | 「神経樹状突起のダイナミクス」                           | クラウス・シュティーフェル (OIST) | アシャ・ゴピナサン（ジェンサイテック社）                      | OIST IRP |     |
| 22 | 2007年9月5日   | 「権力と指導力への道—科学・技術・工学・数学の分野で女性が直面する問題」      | クラウス・シュティーフェル (OIST) | アシャ・ゴピナサン（ジェンサイテック社）                      | OIST IRP |     |
| 23 | 2007年9月12日  | 「歯状回における大人の歯の神経発生の機能解析」                   | クラウス・シュティーフェル (OIST) | ピーター・アップルビー（インスティテュート・フォア・セオレティカル・パイオロジー） | OIST IRP |     |
| 24 | 2007年10月12日 | 「自然勾配による政策勾配強化学習」                         |                      | 森村哲郎（OIST銅谷ユニット）                          | OIST IRP |     |
| 25 | 2007年10月18日 | 「Tau Leap演算法による上皮成長因子受容体ネットワークの数理モデル」     |                      | ミシェル・ベティグリュウ（サイエンスOps社）                   | OIST IRP |     |

|    | 開催日         | テーマ  | 主催者                  | 講演者                               | 開催地       | 参加者 |
|----|-------------|--|----------------------|-----------------------------------|-----------|-----|
| 26 | 2007年11月14日 | 「分裂酵母におけるオルガネラ再生の細胞周期制御機構」                         | 柳田充弘 (OIST)          | ジェレミー・ハイアムズ (マッセイ大学)              | OIST IRP  |     |
| 27 | 2007年11月19日 | 「より高度な神経補完システムの構築」                                 | 銅谷賢治 (OIST)          | バイロン・ユー (スタンドフォード大学)              | OIST IRP  |     |
| 28 | 2007年11月21日 | 「アクチンフィラメントの先端部分におけるキャップ複合体の形成」                    | ファデル・サマテ (OIST)      | アヤ・コツコーヴァ (ニュージャージー州立医科大学)        | OIST IRP  |     |
| 29 | 2007年11月21日 | 「大脳皮質視覚野における情報処理と神経同調」                             | クラウス・シュティーフェル (OIST) | ダンコ・ニコリック (マックス・プランク・ブレインリサーチ研究所) | OIST IRP  |     |
| 30 | 2007年11月21日 | 「色と文字との共感覚の連合メカニズム」                                | クラウス・シュティーフェル (OIST) | ダンコ・ニコリック (マックス・プランク・ブレインリサーチ研究所) | OIST IRP  |     |
| 31 | 2007年11月30日 | 「幻覚の数理生物学」   |                      | ピーター・J・トマス (ケースウエスタンリザーブ大学)       | OIST IRP  |     |
| 32 | 2007年12月3日  | 「真核生物の濃度勾配感受性の情報理論的解釈」                             | クラウス・シュティーフェル (OIST) | ピーター・J・トマス (ケースウエスタンリザーブ大学)       | OIST IRP  |     |
| 33 | 2007年12月6日  | 「アオリイカの自己鏡像への反応」                                   | クラウス・シュティーフェル (OIST) | 池田謙 (琉球大学)                        | OIST IRP  |     |
| 34 | 2007年12月12日 | 「作業記憶に基づく報酬課題および3要素ヘブ学習則のドーパミン調節における神経ネットワークモデル」   | ジェフ・ウィッケンス (OIST)    | アダム・ボンジ (理化学研究所脳科学総合研究センター)       | OIST IRP  |     |
| 35 | 2007年12月20日 | 「発達障害児をもつ家族・もたない家族の比較研究－日系移民とアメリカ人」                | ゲイル・トリップ (OIST)      | 池田圭子 (スタンフォード大学)                  | OIST IRP  |     |
| 36 | 2008年1月10日  | 「トロポミオシン酵母－結晶化と結晶構造解析」                             | ファデル・サマテ (OIST)      | ウラジミール・メシュチェリャコフ (理化学研究所播磨研究所)    | OIST IRP  |     |
| 37 | 2008年1月15日  | 「小脳長期抑圧において短寿命シグナルを長寿命シグナルに変換するポジティブ・フィードバックメカニズム」 | エリック・デ・シュッター (OIST)  | 田中敬子 (デューク大学病院)                   | OIST IRP  |     |
| 38 | 2008年1月28日  | 「顔認識における脳機能解析1」                                    |                      | ドリス・ツァオ (プレーメン大学)                 | OIST OITC |     |

|    | 開催日        | テーマ                                   | 主催者                  | 講演者                             | 開催地              | 参加者 |
|----|------------|---------------------------------------|----------------------|---------------------------------|------------------|-----|
| 39 | 2008年2月1日  | 「亜硝酸依存性窒素酸化物の産生メカニズム」                 | クラウス・シュティーフェル (OIST) | 山崎秀雄 (琉球大学)                     | OIST IRP         |     |
| 40 | 2008年2月5日  | 「顔認識における脳機能解析2」                       |                      | ウィンリッチ・フレイウォルド (ブレーメン大学)        | OIST OITC        |     |
| 41 | 2008年2月5日  | 「類似性の基本パターン」                          | ロバート・シンクレア (OIST)    | グンナー・ウィルケン (ミュンスター大学)           | OIST IRP         |     |
| 42 | 2008年2月6日  | 「TRPチャンネルとマグネシウム恒常性調節」                | 丸山一郎 (OIST)          | 岩崎幸一 (ノースウェスタン大学)               | OIST IRP         |     |
| 43 | 2008年2月18日 | 「小脳のブラックボックスの解明」                      | エリック・デ・シュッター (OIST)  | マリルカ・ウーシサーリ (理化学研究所脳科学総合研究センター) | OIST<br>シーサイドハウス |     |
| 44 | 2008年2月27日 | 「ショウジョウバエの求愛と攻撃をモデルとした質量分析と行動神経科学の連携」 | ロバート・シンクレア (OIST)    | ジョアン・ユー (ハーバードメディカルスクール)        | OIST OITC        |     |
| 45 | 2008年3月3日  | 「目と耳にある特別なシナプス」                       |                      | エンリケ・フォン・ガースドーフ (オレゴン保健科学大学)    | OIST IRP         |     |
| 46 | 2008年3月6日  | 「最短コンピュータープログラム」                      |                      | ジェイソン・トイチュ (RAND社)              | OIST IRP         |     |
| 47 | 2008年3月19日 | 「ダイヤモンドツイン-離散幾何解析のアプリケーション」           |                      | 砂田利一 (明治大学)                     | OIST IRP         |     |
| 48 | 2008年3月25日 | 「ニコチン依存症のニューロダイナミカルモデル」               |                      | ボリス・グッキン (ENS-パリ)               | OIST IRP         |     |
| 49 | 2008年3月27日 | 「進化生物学におけるスピンステムの統計力学から応用へ」           |                      | ディーター・メイヤー (クラウスタール技術大学)        | OIST IRP         |     |
| 50 | 2008年3月28日 | 「ネットワークと単一細胞活動への結合振動子アプローチ」           |                      | ボリス・グッキン (ENS-パリ)               | OIST IRP         |     |
| 51 | 2008年3月31日 | 「視覚における神経活動とSTD」                      |                      | マーク・ロッサム (エディンバラ大学)             | OIST IRP         |     |

<添付資料#11A-b>

|    | 開催日   | テーマ   | 主催者   | 講演者 | 開催地                   | 参加者   |
|----|---|---|---|-----|-----------------------|---|
| 1  | 2007年4月20日-22日  | 国際ワークショップ<br>「逆問題と生物学」                                  | ロバート・シンクレア (OIST)<br>クラウス・シュティーフェル (OIST)   |     | OIST<br>シーサイドハウス      | 講演者 9名 (海外4, 日本5)<br>参加者22名 (海外17, 日本5)<br>合計 31名 (海外21, 日本10)                        |
| 2  | 2007年6月26日-7月11日<br>(※終了予定は7月12日だったが、台風の影響をさけるため11日終了。) | 国際ワークショップ<br>「沖縄計算神経科学コース2007」                          | エリック・デ・シュッター (OIST)<br>銅谷賢治 (OIST)<br>クラウス・シュティーフェル (OIST)<br>ジェフ・ウィッケンズ (OIST)                               |     | OIST<br>シーサイドハウス      | 講演者18名 (海外10, 日本8)<br>フェー 10名 (海外8, 日本2)<br>参加者30名 (海外26, 日本4)<br>合計 58名 (海外44, 日本14) |
| 3  | 2007年11月8日-9日   | 国際シンポジウム<br>「Salk-OIST 神経科学会合」                          | テレンス・セジノフスキー (Salk)<br>クラウス・シュティーフェル (OIST)   |     | Salk<br>(サンディエゴ, 米国)  | 講演者12名 (海外11, 日本1)<br>参加者26名 (海外22, 日本4)<br>合計38名 (海外33, 日本5)                         |
| 4  | 2007年12月11日-14日   | 国際ワークショップ<br>「高性能コンピューティング」                             | 銅谷賢治 (OIST)<br>クラウス・シュティーフェル (OIST)<br>エリック・デ・シュッター (OIST)  |     | OIST<br>シーサイドハウス      | 講演者13名 (海外10, 日本3)<br>参加者16名 (海外11, 日本5)<br>合計29名 (海外21, 日本8)                         |
| 5  | 2008年1月28日- 2月2日  | 国際ワークショップ<br>「システムバイオロジーのグラフィカル表記法スーパーハッカソン」            | 北野宏明 (OIST)<br>ニコラス・ル・ノベイル (EMBL-EBI)<br>マイク・フッカ (Caltech)<br>舟橋啓 (SBI & 慶応大学)                                |     | OIST<br>シーサイドハウス      | 合計31名 (海外24, 日本7)   |
| 6  | 2008年3月8日-11日   | 国際ワークショップ<br>「MAPK経路のシステムバイオロジー」                        | 北野宏明 (OIST)<br>ステファン・ホームマン (ヨテボリ大学)<br>ロジャー・ブレント (分子科学研究所)  |     | OIST<br>シーサイドハウス      | 講演者16名 (海外12, 日本4)<br>参加者19名 (海外15, 日本4)<br>合計35名 (海外27, 日本8)                         |
| 7  | 2008年1月6日-11日   | (共催ワークショップ)<br>国際ワークショップ<br>「OISTヒューマンフロンティアサイエンスプログラム」 | 銅谷賢治 (OIST)<br>伊佐正 (自然科学研究機構生理学研究所)<br>ローレント・イティ (南カリフォルニア大学)<br>ダグラス・ムノ (クィーンズ大学)<br>ジャン・シーウエ (アムステルダムフリー大学) |     | OIST<br>シーサイドハウス      | 講演者13名 (海外4, 日本9)<br>参加者16名 (海外9, 日本7)<br>合計29名 (海外13, 日本16)                          |
| 8  | 2007年8月23-24日   | 協賛ワークショップ<br>「脳と心のメカニズム」                                | 銅谷賢治 (OIST)   |     | 札幌                    |   |
| 9  | 2008年1月9-11日  | 協賛ワークショップ<br>「脳と心のメカニズム」                                | 銅谷賢治 (OIST)   |     | 北海道ルスツリゾート            |   |
| 10 | 2008年1月9-11日  | 協賛ワークショップ<br>「第2回OIST-韓国ワークショップ」                        | 遠藤昌吾 (OIST)   |     | 慶北大学校 (韓国)            |   |
| 11 | 2008年3月16-20日   | 「第9回ニューロペプチド Y 国際ミーティング」                                | 内藤隆之 (OIST)   |     | 沖縄かりゆしビーチリゾート・オーシャンスパ |   |

## <添付資料#11B-1>

### ワークショップアンケート

#### <Inverse Problems Workshop>

日付： 2007年4月19日～4月23日

### 回答数 14件

#### 1. 講義内容

- ・ 優良(9), 良い(5)
- ・ 状況によりますが、基本的にとてもすばしかったです。プログラムのプランニング、講演者の全員が真剣に事前準備に取り組みすばらしい発表でした。トピックの段階的なことや生物学的な見解での Inverse Problems、生物学的に強調するのはいくつか限界があったように思えます。しかしながら講演はとてもよく準備されていて有益かつ教育的でした。
- ・ 平均的。優良のところもあり。
- ・ ロバート・シンクレアさんはとても良かったです。
- ・ すべてのプレゼンテーションを楽しめました。とても教育的で刺激的でした。とても広い範囲でリサーチが進んでいる生物学と物理学、コンピューターサイエンスを学び、融合できた経験は初めてでした。
- ・ 講演者はとてもすばしかったのですが、伝統的な学際的講義理論は必要性のない重複表現ばかりが並び、難しいアイデアは添付レポートで後で聴講者が時間があるときに熟読してもらえば良かったと思われます。それぞれのトピックはペアで話をした方が良かったかもしれません。(例えば、聴衆者がレポートを読む前の入門講義と後のセミナー)
- ・ リサーチする上に当たっての問題点をあげてくれると良かったと思います。

#### 2. キャンパス視察

- ・ 優良(7), 良い(4), 可(1)
- ・ よりよいプランニング、OISTのゴールや重要性、また、沖縄の興味深い歴史がよく説明されていてすばしかったです。
- ・ 参加しませんでした。すみません。
- ・ 参加できませんでした。
- ・ 城へ訪れて日本の歴史や文化に一部でも触れることができ、よい経験でした。
- ・ 学べる素晴らしい機会と、素晴らしい頭脳とのネットワーク。しかし、OIST主催者は彼らを取り巻く文化において文化的妥当性と移りやすい誇りの感情を付け加えた。感謝します。

#### 3. 会場

- ・ 優良(13), 良い(1)
- ・ 他ではみることのできない高いランクでした。
- ・ エアコンがとてもよく効きすぎていて風邪を引いて帰宅しました。寒かったです。
- ・ レクチャーホールのスライドやプロジェクター、マイクなどもとても良かったです。
- ・ このワークショップは全ての面において出席者と講師をオーダーメイドのように世話をしてくれました。

#### 4. 宿泊施設

- ・ 優良(11), 良い(3)
- ・ オーシャンビューのお部屋はパーフェクトでした。食事やダイニング施設もこれ以上のところはないでしょう。
- ・ 日本に住んでいますが、また新しい料理の仕方を知りました。毎日スタッフの方々には親切にして

戴きました。宿泊施設や食事もとてもよくて参加者はワークショップに専念することができたと思います。

#### 5. 食事

- ・ 優良(12), 良い(2)

#### 6. 事務局

- ・ 優良(13), 良い(1)
- ・ もしすべての会議がこのようにハイレベルに開催できれば、すばらしいと思います。
- ・ 事務局の方々はランクAの仕事をしたと思います。
- ・ すべてのスタッフがすべてにおいてとてもすばしかったです。
- ・ OISTは他の機関にもモデルにされるべきであるすばらしい組織です。

#### 7. 旅行手配

- ・ 優良(10), 良い(3)
- ・ すべて順調に進みました。
- ・ 旅行手配に関してとてもよい印象がありますが、関西からのみの旅行でしたので私の感想は評価に値するかは分かりません。
- ・ 今まで経験した中で一番スムーズに進んだ旅行プランでした。(沖縄への飛行機も含め)
- ・ これ以上、何も心配いらない手配は望めません。

#### 8. 沖縄の印象

- ・ 優良(10), 良い(3), 可(1)
- ・ たくさんの事柄からの意見ですが、訪れる機会がもてて、とても興味深いところでした。"Inverse Problems in Biology"のもっと発達した関連リサーチの構築があればまたぜひ戻ってきたいです。
- ・ OISTの周辺はとも感じがよくです。
- ・ すばらしいところだと思います。数日間パラダイスにいるようでした。
- ・ 以前は沖縄を訪れてみようとも思っていませんでしたが、OISTがこれから永続的で前向きな沖縄の印象を与えてくれました。

#### 9. 他のコメント

- ・ ロバート・シンクレア、アシスタントやその他関係者の方々には祝辞を受けるべきであるほどこのワークショップのすばらしいホストでした。
- ・ 沖縄滞在をとても満喫しました。皆さんのホスピタリティーに感謝いたします。
- ・ ただ一つアドバイスすることがあれば、講義内容について改善があると思います。このミーティングの核がよく説明しきれておらず、リサーチ内容が沢山ありましたがあまりそれらの関連性がないように思えました。
- ・ 多様な学術分野の答弁が本当に興味深いワークショップでした。OISTのプロジェクトはチャレンジで、また、もうすでに習得しているものについてもとても感銘を受けました。これからもこの成功を維持されるよう願っております。
- ・ 日本での滞在は私にとってとてもためになり、またぜひ会議に出席したいです。その時はもっとコミュニケーションがとれるようにします!
- ・ もう少し疑問答弁があっても良かった。一講義あたりにOR休憩を入れるべきで、30-45分ほどあれば参加者が講演者がまだ熱が入っているときに質疑応答ができると思います。
- ・ 主催者の方々や事務局のスタッフにはこのような機会を私に与えてくださりとても感謝しています。OISTのプログラム、世界レベルのセンターへなるビジョンなどの成功を願っています。また、OISTへ戻ってこられるのを楽しみにしております。ぜひまた呼んでください。ありがとうございます!
- ・ 今回のトピックに直接関連のあるフィールドで働いているので、このワークショップは私のキャリアへの熱望を改革(変えること)することを私に確信させてくれました。Heg e先生のプレゼンは私の物理学へのスタート点において基本となるべくものになるでしょう。この私の応用フィールドの部門への教化以降、代数学、生物学の多様な学術分野においてのリサーチに貢献できるよう、これからもこのようなすばらしい方々と出会い続けられると良いです。もしまたこのような素晴らしいワークショップに参加することができるなら、私の人生はとても良くなるでしょう。この機会を与えてくださった方々に感謝します。そしてこれからここでの経験を活かしていくことを約束します。
- ・ このようなすばらしいワークショップを開催していただきどうも有り難うございます。